

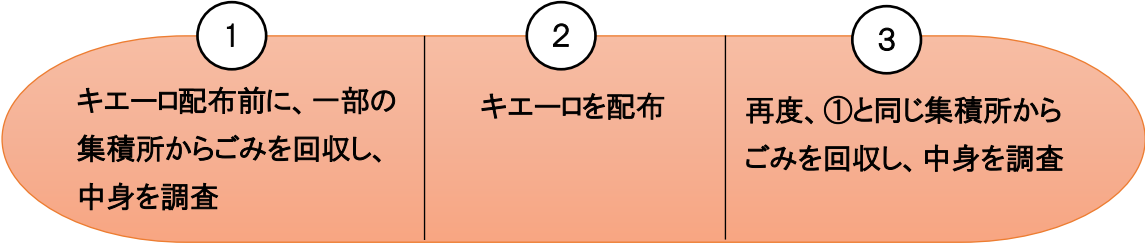
組成分析調査と組み合わせた
キエー口活用モデル事業の結果について

1. 概要

上松原町会に加入する希望者66名に生ごみ減量化容器「ミニ・キエー口」を使用いただき、キエー口配布前後の生ごみの割合を調べることで、キエー口の生ごみ減量効果を調査したものの。

2. 調査方法

町会に設置されているごみ集積所の中から一部の集積所を選定し、選んだ集積所から、キエー口配布前と配布後にそれぞれ、合計 200kg のごみを回収してその中身を調べました。



3. 生ごみ

調査では生ごみを3つに分類し、分類ごとに割合を明らかにしています。

A 未使用食品	B 調理くず	C 食べ残し
未開封の容器・袋に入ったもの	調理中の除去などにより発生した野菜の皮や魚の骨などの食べられない部分	食卓に出されたが、食べられなかったもの
		

4. 結果

- ※ 参考…過去7年間(H27～R3)の調査における生ごみの割合(平均)37.8%
- ※ 割合は小数点第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計と総計は一致しないことがあります

松原地域 ※キエー口使用者40名

	燃やせるごみの中に含まれる割合	
	キエー口配布前(7/29)	キエー口配布後(8/19)
未使用食品	6.5%	2.9%
調理くず	23.8%	24.0%
食べ残し	7.2%	5.8%
生ごみ総計	37.5%	32.7%

4.8p減少!!

広野地域 ※キエー口使用者26名

	燃やせるごみの中に含まれる割合	
	キエー口配布前(8/5)	キエー口配布後(8/26)
未使用食品	3.7%	0.5%
調理くず	27.1%	22.3%
食べ残し	7.6%	8.9%
生ごみ総計	38.4%	31.8%

6.7p減少!!

5. まとめ

- 今回調査したごみ袋は、集積所に置かれている中から無作為に選んでいるため、キエー口を使用していない方の分も含まれているが、どちらの地域でも生ごみの減量を達成できた。
- キエー口使用者からは、「キエー口を使ってからは、キエー口に入れる生ごみを少なくしようと、料理を食べきったり、野菜をカットする時に出来るだけごみを出さないように意識するようになった」と感想をいただいた。キエー口には、もともとのキエー口の効果である「**生ごみを消滅させる**」以外にも、使用者の中に「**生ごみを発生させない**」という意識が働き、それが「**生ごみそのものの発生量が減る**」という二重の効果もあることがわかった。



今後、本結果を広報やホームページ、ワークショップなどで周知し、継続的な使用とさらなる普及に努める